

2018年6月、私が東京大学の修士2年在学中に、基礎物理学研究所の准教授（当時）だった板垣さんのもとにビジターとして2週間滞在した際に、初めて大西さんにお目にかかりました。その後、研究会や議論のため頻繁に京都大学に出張していましたが、その度に大西さんにお会いして、なんだかんだと毎回お話しした気がします。特に、理学部5号館と基研の間の道ですれ違うたびに会釈をされる大西さんや、研究会の懇親会の際にパナソニックホール前のサロンで熱く語っている大西さんの記憶は鮮明です。研究上の接点はそこまで強いものではなかったものの、低エネルギー原子核理論にも造詣の深い大西さんは、研究会の際には頻繁に質問をしていただいたり、近況等についていつも気にかけていただいたりと、特に若手に対して面倒見が良い印象が非常に強いです。特に、コロナ禍で開催された熱場の量子論研究会のオンラインポスター発表で、いつも厳しくも適切なコメントをくださる大西さんに好評価を頂いたのは非常に嬉しかったのを覚えています。

2022年12月には、私の共同研究者でもあるミラノ大の Gianluca Colò 氏が客員教授としての基研滞在中、国内モレキュール型研究会を開催しましたが、その際の基研側連絡担当者として大西さんには大変ご尽力いただきました。基研での研究会開催が初めてだった私は、ご迷惑をおかけしてばかりだった気がします。特に印象が深いのは、私はコーヒブレイクの準備のことをすっかり忘れていたのですが、大西さんは、直前まで海外出張されていたにも関わらず、エスプレッソマシンをいつの間にか準備してくださりました。結果的に、エスプレッソマシンの周りには常に参加者が集まり、活発な議論が行われました。エスプレッソマシンなしでは、研究会は成功しなかったと思われ、この研究会最大の功労者は大西さんなのではないかと確信しています。大西さんにお礼を伝えた際、バンザイをしながら無邪気に喜んでいらっしまったのもよく覚えています。その時はまだ、少なくとも傍からお見受けする限りは、お元気だったように感じます。

その後、2023年3月3日、Colò 氏の送別会でお会いした際に、大西さんはあまり体調が優れないとお伺いして、とても心配していたのですが、その時がついぞ最後になってしまいました。最後にお会いしたのがほぼ1年前というのが、未だに実感がわきません。その後も何度か京都に行く機会がありましたが、大西さんを見かけない京大というのはなんだか寂しさを感じます。それと同時に、5号館から基研への道すがら、いまでもすれ違って会釈されるのではないかと、という気もしています。

大西さん、いままでいろいろと大変お世話になりました。京大の学生でもポスドクでもない、ふらっと京都に出没するよくわからない学生、ポスドクだった私を、いつも気にかけていただき本当にありがとうございました。ご冥福をお祈りします。

内藤 智也（理化学研究所 数理創造プログラム 基礎科学特別研究員）